

課題名：MRI画像によるアルツハイマー病コンピュータ支援診断プログラムの開発

代表機関／代表者：東北大学／舘脇康子

分担機関：慶應義塾大学、量子科学技術研究開発機構、九州大学、熊本大学、シミズ病院、京都大学

研究期間：令和6年9月～令和9年3月

クラス分類：プログラム医療機器クラスⅡ

研究開発目的

- 「アミロイドMRI」を開発し、認知症の超早期診断技術を確立
- 「アルツハイマー病」に対する診断の標準化とAI解析の導入
- 医療費削減、産業への波及効果による、地域医療への貢献

取り組み

- 多施設/多種MRIベンダーで大規模な臨床データを収集し、アミロイドMRIの診断性能の向上を図る
- 早期の事業化を目的として、アミロイドMRIの製品レベルのプログラム開発を実施し、製品の最終仕様を決定
- 米国展開と国内の医療機器承認に向けたヒアリングの実施
- 事業化に向けて、スタートアップ～EXITまでの戦略の構築

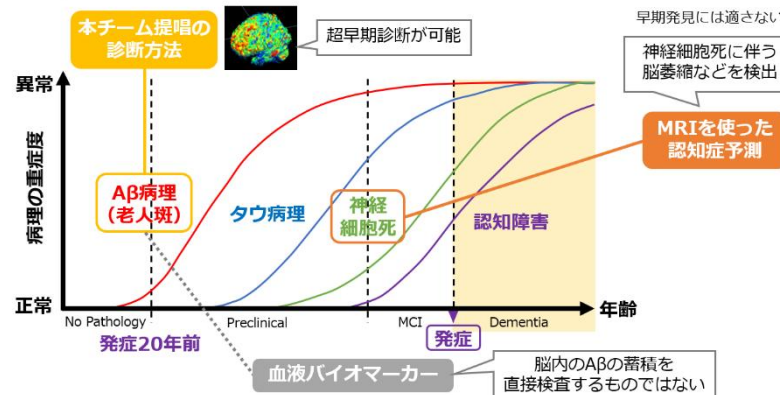
成果

- 多施設臨床研究や米国でのex-vivoのデータ収集の実施
- 薬事承認に向けて、PMDAとの開発前相談を実施
- 事業化戦略として、ビジネスモデルの構築と市場展開の明確化
- 製品化や国際展開に備えた、知財戦略の実施
- 研究用プログラムの完成と製品化に向けた開発チームの構築

今後の展開

- アミロイドMRIによる低コストで低侵襲な新しいAβ診断技術の確立
- 新技術の確立により、ADの早期発見の機会が飛躍的に増加し、多方面での高齢化社会に対する課題解決に貢献
- 製品レベルのプログラムが開発され、国内外での事業を展開

アミロイドMRIの特徴



サービス提供先

